

## 令和 5 年度事業計画の件

本事業計画は定款第 38 条により令和 4 年度第 6 回理事会で承認しました。内閣府に令和 5 年 3 月 31 日に届け出たものです。届け出後に確定した日程を加筆してあります。

### 公益社団法人日本栄養・食糧学会

#### 令和 5 年度（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）事業計画

##### <基本方針>

公益社団法人に相応しい、社会に貢献する学術法人として、理事会が中心となって、目的とする公益事業推進のための体制を維持、発展させ、一層の改革を進める。

さらなる公益事業の推進と財政基盤の安定化のため、会員の増加を目指した活動と並行して、税法上の特定公益増進法人であることを生かし、各事業における収入源を確保していく。

特に前年度は第 22 回国際栄養学会議のために積み立ててきた特定資産を取崩し、計画的に自己資金を消費して、第 22 回国際栄養学会議を開催した。このことによる学会の資金的な懸念はなく、今後も本法人の安定的運営を継続すべく財政安定化をさらに目指していく計画である。

また、2015 年に日本で開催したアジア栄養学会議が、再び日本が担当すると予想されるため、新たな基金を設け、準備することとする。

公益目的事業の展開のうち、まず栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業として以下の学術集会を行う。

第 77 回年次大会を北海道札幌市において開催する。これまでの年次大会と同様に特別講演、シンポジウム、国際シンポジウム、医学系学会との合同シンポジウム、市民公開講座等が企画されている。また、昨年度学会創立 75 周年を迎えたことを受け、創立 75 周年記念誌の本年度の刊行を目指して、関連委員会の活動を強化・発展させる。

また一般講演はポスター発表の形式で行い、その中から優秀な発表に対して学生優秀発表賞を授与する制度を継続する。一般講演の中から先進的・画期的な優れた先進的・画期的な講演を選出し、大会前にプレス発表を行っているが、第 74 回大会からプレス発表された講演についてトピックス賞を授与することとしており、これを継続する。

各支部においては、支部大会およびシンポジウム等を、各支部により企画されたテーマのもと、効率のよい開催方法により関連学会とも連携を図りつつ開催する。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業の展開については、学会誌、欧文誌の刊行を通して人々の健康・福祉の向上に寄与する。日本栄養・食糧学会誌の定期的刊行を継続するが、編集委員会・用語委員会と連携し、学会誌編集業務のさらなる効率化を図る。日本ビタミン学会と合同編集の欧文誌 Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV) においては、日本ビタミン学会との協議に基づき平成 30 年 2 月から実施したペーパーレス化を定着させ、会員にとってより投稿しやすく、かつ世界の栄養学術誌としての地位を高め、より質の高い欧文誌として認知されるよう活動を継続する。令和 2 年末からは、日本ビタミン学会の他、FANS (Federation of Asian Nutrition Societies) も参加することになり、国際化が更に図られることとなった。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い各種会議はオンラインによる Web 会議となり、そのための Web 会議システム「Zoom」を必要とする支部に継続して導入した。事務局では、データ共有・保存システムを刷新し、個人情報などを的確に保護・管理する体制にし、流行の拡大を受けて、担当業務によっては、テレワークが可能な体制を構築したので、これを継続して活用していく。

さらに ICN 開催後の本学会が行うべき活動内容に関して、栄養科学・食糧科学のさらなる発展に寄与すべく、将来構想検討委員会を中心に検討を開始する。

また、当学会が世話人となっている日本栄養学学術連合（栄養関連 15 学会で構成）として、2021 年 12 月 7 日～8 日に開催された「東京栄養サミット 2021」に参加し、コミットメントを表明した。令和 4 年度からコミットメントに対応する年間実績の報告が求められ、ワーキンググループを作り、継続的に対応してゆく。

以上の事業展開は、学会内の各委員会により効率よく進めるものとする。

公益目的事業を維持しつつ、時代の変化に対応していくために、理事会の活動を強化し、当学会の今後の進路を明確にするため、将来構想検討委員会が中心となって、本学会の一層の発展を中長期的に検討することとする。また、利益相反 (COI) 委員会および理事会での検討を基に、本格運用に入った COI 制度に関して、申告すべき COI 状態のある会員の利便性を向上させる観点からの改革を進める等、本学会にふさわしい制度を目指すこととする。合わせて倫理規定の見直し等を行い、COI 制度との整合性を検討していく計画である。

第 69 回大会より授与している日本栄養・食糧学会技術賞を継続し、産官学連携の一層の充実を目指し、公益法人として関連する産業の発展に寄与することを目指した活動を継続する。

以上の基本方針をもとに、下記事項を推進する。

## I 学会運営および会員サービスの更なる基盤強化

- 1) 公益法人認定法に基づく公益事業推進体制の充実
- 2) 理事会のガバナンスによる学会運営の着実な実施とコンプライアンスの強化
- 3) 会員増を目指した活動の継続
- 4) 寄附金の積極的受け入れ
- 5) 外部団体（日本学術会議、日本医学会連合、日本栄養学学術連合、等）への貢献・協力

- 6) 日本栄養・食糧学会技術賞等による産官学連携の一層の強化
- 7) 利益相反(COI)指針・細則等によるCOI管理の実施
- 8) 年次大会における学生優秀発表賞の継続実施と、栄養・食糧学基金／若手研究助成を中心とする若手会員の支援強化
- 9) 年次大会におけるトピックス賞継続
- 10) 年次大会における国際シンポジウム、医学系学会との合同シンポジウムの継続的開催
- 11) 大会講演要旨集のWeb公開の定着とデータの蓄積

## II 各種事業活動の推進

### <栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業(公1)>

#### 1) 大会事業の推進

##### (1) 第77回日本栄養・食糧学会年次大会の開催

- 会頭 園山 慶 北海道大学大学院  
期日 令和5年5月12日(金)～14日(日)  
会場 札幌コンベンションセンター(札幌市)
- ① 特別講演
  - ② 教育講演
  - ③ 国際シンポジウム
  - ④ 医学系との合同シンポジウム
  - ⑤ シンポジウム
  - ⑥ 市民公開シンポジウム
  - ⑦ 関連学会集会

##### (2) 支部事業(発表・講演会・シンポジウム等)の推進

#### ①北海道支部

##### i) 第53回日本栄養・食糧学会北海道支部大会

- 期日 令和5年9月～10月  
会場 未定

##### ii) 支部シンポジウム

- 期日 令和5年12月  
会場 未定

#### ②東北支部

##### i) 第57回日本栄養・食糧学会東北支部大会

- 期日 令和5年秋頃  
会場 岩手県盛岡市(予定)  
内容 支部参与会、支部報告会、一般講演、情報交換会

##### ii) 公開シンポジウム

- 期日 令和5年秋頃  
会場 岩手県盛岡市(予定)

#### ③関東支部

##### i) 第111回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

- 期日 令和5年9月～10月頃  
会場 未定

同時に参与会開催

##### ii) 第26回健康栄養シンポジウム

- 期日 令和6年2月～3月頃  
会場 未定  
協賛：日清オイリオグループ

##### iii) 第112回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

- シンポジウム  
期日 令和6年2月～3月頃  
会場 未定

#### ④中部支部

##### i) 第82回日本栄養・食糧学会中部支部大会

- 期日 令和5年7月  
会場 名古屋外国語大学 名駅キャンパス
- ii) 第83回日本栄養・食糧学会中部支部大会  
期日 令和5年11月  
会場 名古屋外国語大学 名駅キャンパス

#### ⑤近畿支部

- i) 第62回日本栄養・食糧学会近畿支部大会  
期日 令和5年11月11日(予定)  
会場 近畿大学(奈良)
- ii) 若手活動支援事業(近畿支部若手奨励賞)  
期日 令和5年11月11日(予定)  
会場 近畿大学(奈良)
- iii) 若手活動支援事業(第14回栄養学を志す若手のためのフォーラム)  
期日 令和5年11月12日(予定)  
会場 近畿大学(奈良)またはWeb開催  
日本栄養改善学会近畿支部共催

#### ⑥中国・四国支部

- i) 第56回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会  
大会実行委員長: 阪上 浩(徳島大学大学院医歯薬学研究部)  
期日 令和5年度10月21日(土)・22日(日)  
会場 徳島大学医学部キャンパス(蔵本地区)

#### ⑦九州・沖縄支部

- i) 2023年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会  
シンポジウム・一般講演・「栄食支部発表賞」2次審査・授賞式  
期日 令和5年10月14日(土)・15日(日)  
会場 大分県(詳細未定)  
会頭: 望月 聡(大分大学)  
(一社)日本家政学会九州支部合同開催

## 2) 表彰事業の推進

- (1) 令和5年度表彰授与式開催(令和5年度定時社員総会時)  
功労賞3件、学会賞3件、奨励賞3件、技術賞2件  
学生優秀発表賞 10件(令和5年度学術大会時)  
トピックス賞 18件(令和5年度学術大会時)
- (2) 令和6年度対象各賞選考の実施  
各種授賞等選考委員会開催(令和5年12月)  
功労賞3件以内、学会賞3件以内、奨励賞3件以内、技術賞2件以内の推薦
- (3) 外部団体への授賞推薦の推進  
年間スケジュールの公開と更新の実施

## 3) 助成・助成推薦事業の推進

- (1) 支部大会事業活動の支援
- (2) 基金交付対象の選考の実施
- (3) 外部団体への助成推薦の推進  
学会誌等へ掲載しその公示をタイムリーに行う。

## 4) 栄養科学・食糧科学に関する研究・調査事業

- (1) 健康・食品保健表示に関する検討  
栄養成分表示および保健機能食品の現状・動向を調査するとともに、普及啓発を行う。  
日本人の食事摂取基準の普及啓発を行う。今後の委員会の活動方法を検討する。  
第77回日本栄養・食糧学会大会において「特定保健用食品の表示」に関するシンポジウムを開催する。
- (2) 栄養・食糧学用語に関する検討  
昨年度に引き続き学術用語の管理を行う。  
栄養・食糧学用語辞典(第2版)における見出し語ならびに説明文の検証を引き続き行う。  
用語の修正・新規収録を検討し、ホームページへの掲載を目指す。

## 5) 国際交流事業の推進

- (1) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS、アジア栄養学会連合) 関係  
FANS と連携し、その事業を支援する。
- (2) International Union of Nutritional Sciences (IUNS、国際栄養科学連合) 関係  
IUNS と連携し、その事業を支援する。
- (3) International Union of Food Science and Technology (IUFoST、国際食品科学工学連盟) 関係  
IUFoST Japan と連携し、その事業を支援する。
- (4) 海外関連学会との連携  
第 77 回大会での国際シンポジウムとして、韓国食品栄養科学会 Korean Society of Food Science and Nutrition (KFN)、台湾栄養学会 Nutrition Society of Taiwan (NST) との共催シンポジウムを実施する。

## 6) 倫理審査事業の推進

- (1) 迅速な審査体制の確立と実施
- (2) 倫理審査規程の随時改訂  
現在の「倫理審査委員会に関する規程」は、「その研究がヘルシンキ宣言（1989 年香港総会で修正）の趣旨に沿った倫理的配慮のもとに行われることを目的として」とありますが、我が国のすべてのヒト対象の研究は、厚労省、文科省、経産省合同の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に適合するように行われる必要がありますので、規程の改訂を検討中です（事務局の対応の遅れで定時社員総会後の予定になります。）。

## < 栄養科学並びに食糧科学の情報の活用推進と普及事業（公 2） >

### 1) 出版事業の推進

- (1) 日本栄養・食糧学会誌の刊行  
第 76 巻 2 号～6 号、第 77 巻 1 号を定期的に刊行する。
- (2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV) の刊行  
日本ビタミン学会との共同編集で、Vol.69-No.2～No.6、Vol.70-No.1 を定期的に Web 公開する。  
各国の関連学会、特に FANS との連携を強化しつつ、欧文誌としてさらなる国際化を図る。

### 2) 広報事業の推進

- (1) 会員向けメールマガジン栄食ニュースの充実と定期発信
- (2) 関連学術団体、関連機関との連携及び依頼記事の広報推進
- (3) ホームページの告知・掲載記事に関し、確実、迅速な更新の実施

## III 総会、理事会等の開催（予定）

1) 定時社員総会		令和 5 年	5 月	12 日	(金)
2) 理事会	第 1 回	令和 5 年	4 月	22 日	(土)
	第 2 回	令和 5 年	5 月	11 日	(木)
	第 3 回	令和 5 年	7 月	22 日	(土)
	第 4 回	令和 5 年	10 月	21 日	(土)
	第 5 回	令和 6 年	1 月	20 日	(土)
	第 6 回	令和 6 年	3 月	23 日	(土)
3) 業務執行理事打合せ	第 1 回	令和 5 年	7 月	15 日	(土)
	第 2 回	令和 5 年	10 月	7 日	(土)
	第 3 回	令和 6 年	1 月	13 日	(土)
	第 4 回	令和 6 年	3 月	9 日	(土)
4) 名誉会員・終身会員推薦委員会		令和 6 年	1 月	13 日	(土)
5) 名誉会員・顧問懇談会		第 77 回大会中に開催予定			
6) 各支部の参与会		支部大会にて			

## IV 委員会活動

### 1) 常置委員会

- ① 各種授賞等選考委員会（規程により委員は非公開）
- ② 学会活動強化委員会 (委員長 白川 仁)
- ③ 倫理審査委員会 (委員長 曾根 博仁)
- ④ 国際交流委員会 (委員長 仲川 清隆)

- ⑤学会誌編集委員会 (委員長 二川 健)
- ⑥広報委員会 (委員長 池田 彩子)
- ⑦用語委員会 (委員長 二川 健)
- ⑧将来構想検討委員会 (委員長 吉田 博)
- ⑨健康・食品保健表示検討委員会 (委員長 石見 佳子)

## 2) 非常置委員会

- ①第 22 回国際栄養学会議組織委員会 (委員長 加藤 久典)
- ②創立 75 周年記念誌刊行委員会 (委員長 長岡 利)
- ③宇宙食専門認定制度検討委員会 (委員長 二川 健)

## 3) 定款第 35 条 2. による委員会

- ①中央選挙管理委員会 (委員長 片倉 喜範)
- ②利益相反 (COI) 委員会 (委員長 曾根 博仁)

## 4) 日本ビタミン学会との合同委員会

- JNSV 編集委員会 (委員長 佐藤 匡央)